

転移性前立腺がんの分子診断に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：(2023年12月19日)～2025年3月31日

〔研究課題〕

転移性前立腺癌に対するアンドロゲン遮断療法の治療効果を予測する計算式の開発に向けた多施設共同研究

〔研究目的〕

転移性前立腺がんの患者さんに対しては、アンドロゲン遮断療法を行うことが標準治療となっていますが、個々の患者さんによってアンドロゲン遮断療法の治療効果は大きく異なっています。このアンドロゲン遮断療法の治療効果に及ぼす因子についてはまだ十分に明らかになっていません。そこで、今回の研究では前立腺生検の検体から RNA を抽出し、各種前立腺がんの進行に関わる可能性のある分子を解析して、アンドロゲン遮断療法の治療効果を予測するモデルを開発することを目的としています。

〔研究意義〕

転移性前立腺がんの患者さんに対するアンドロゲン遮断療法の治療効果を予測することができるようになれば、個々の患者さんに対して、より良い治療戦略を立てることができると考えられます。

〔対象・研究方法〕

対象：2009年1月1日から2020年12月31日までの間に、当院で前立腺生検を施行された転移性前立腺がんの患者さん

研究方法：前立腺生検の病理組織検体のパラフィン固定サンプルを自治医科大学腎泌尿器外科学講座に送付し、RNA から各種前立腺がんの進行に関わる可能性のある分子を解析します。そして、臨床情報(病理型、病期、投薬などの治療内容、放射線画像検査、血液検査などの各種検査データや臨床評価指標など)と照らし合わせ、アンドロゲン遮断療法の治療効果を予測する計算式を開発します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院、自治医科大学附属病院、日本大学医学部附属病院、東京大学医学部附属病院

研究代表機関：自治医科大学附属病院

研究代表者：自治医科大学腎泌尿器外科学講座 教授 藤村哲也

〔個人情報の取り扱い〕

患者さん個人のお名前などの個人情報は誰のものかわからないように加工させて頂き、その保護には十分に配慮いたします。

対象となる患者さんで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：氏名	中川 徹	職名	主任教授
研究分担者：氏名	金子 智之	職名	病院准教授
所属：	帝京大学医学部泌尿器科学講座		
住所：	東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211 (代表) [内線 16595]		